



1,2_なのはなプラザに設けられた商工祭ブース / 3_文化センター前の商工祭会場。多くの人でにぎわった / 4_スイーツまつりの体験ブースには長蛇の列が / 5_初開催のいす-1GP / 6_いす-1GPに参加した一関郵便局の高橋正さん / 7_一関文化センター前では、産業まつりの合同オープニングセレモニーが行われた / 8_商工祭を楽しむ熊谷香奈枝さん、優ちゃん(6)、澤ちゃん(2) / 9_スイーツまつりでタルトケーキをつくった眞籠杏奈ちゃんと伶奈ちゃん



職人の技に惚れ、活気ある街に恋する 第66回一関地方産業まつり

「第66回一関地産業まつり商工祭」と「福の市」は10月24、25の両日、一関文化センターなどで開かれ、多くの家族連れなどが、買い物や体験コーナーを楽しみました。

「商工祭」は、一関文化センターとなのはなプラザを会場に、5年ぶりに街なかで開催。市内、近隣市町など約90業者の特産品、海産物、工芸品などが販売されました。親子で訪れた巖美の熊谷香奈枝さん(36)は「農業祭から商工祭にきました。子供たちにとっては、シャトルバスもアトラクション。両方のお祭りを満喫しました」と話してくれました。

また、「福の市」は大町通りを会場に開催。商店街全体を活気づけようと新たな催し「いす-1GP一関大会」と「ス

商工祭・福の市

weetsまつりinいちのせき」を実施しました。「いす-1GP一関大会」は、事務用椅子に座り、脚で地面を蹴って速さを競う2時間耐久レース。県内外の3人1組29チームが一関郵便局・高橋正さん(26)は「地域を盛り上げたいと思い、参加しました。想像していたよりもきついです」と汗を拭きました。

「スイーツまつりinいちのせき」は、岩手県南・宮城県北地域の菓子・甘味が一堂に会す催しで、スイーツを対象にした初の試み。タルトケーキづくりを体験した山目小1年の眞籠杏奈ちゃんと伶奈ちゃんは「大好きなブルーベリーケーキ。上手にできた」とうれしそうに話してくれました。

恵みの秋を祝い、旬の味覚に舌鼓を打つ 第66回一関地方産業まつり 農業祭・住宅祭

「第66回一関地方産業まつり農業祭」と「住宅祭」は10月24、25の両日、市内狐禅寺の市総合体育館を会場に開かれ、大勢の市民らが秋の実りや多彩なイベントを楽しみました。

今年は、一関文化センターなどを会場にした商工祭と同時開催。両会場を相互に行き交えるように、無料シャトルバスを運行しました。

秋の一関を代表するイベントとして66回を数える農業祭では、地元産の農産物を販売するコーナー、はっと・いものこ汁の飲食コーナーなどが軒を連ねました。訪れた買い物客らは、生産者と交流しながら買い物を楽しんでいました。ステージでは、福島県二本松市の提灯祭りお囃子や人気キャラクターショーなどを開催。親子連れなどが、ステージに声援を送っていました。

加工品を中心に出品した生活研究グループの会員は「来場者も多く、売れ行きも好調です」とにっこり。親子3人で訪れた山目の菅原智彦さん(39)は「活気があるっていいですね。一関にはいろいろなイベントがあって楽しめます」と、親子木工教室で飾り棚を作った水戸京香さん(南小3年)は「釘の下穴を開けるのが難しかった。大好きなぬいぐるみを飾ります」とうれしそうに話してくれました。

同会場では「いわて南牛まつり」も同時開催。今年は、地元ブランド牛「いわて南牛」のほか、県際連携事業として登米市と栗原市が「仙台牛」を販売しました。精肉販売のほか、いわて南牛のどんぶりや仙台牛の串焼きを販売し、それぞれの自慢の味を来場者にPRしました。

また、住宅祭は「次世代につなげる住まいづくり」をテーマに市総合体育館で開催。住宅関連企業が最新の設備機器などを展示し、大勢の家族連れなどでにぎわいました。

会場には、バリアフリー体験、地震体験、建設機械ふれあいコーナーなどを設置。来場者は、興味津々に展示品に見入ったり、体験コーナーを楽しんだりしていました。



1_新鮮な野菜が並ぶ直売コーナー / 2_木工教室では飾り棚を製作 / 3_祭りを楽しむ菅原智彦さん親子 / 4_見事な野菜が並ぶ農産物品評会 / 5_住宅祭の建設機械の乗車体験 / 6_笑顔で接客する生活研究グループ / 7_最新設備が並んだ住宅祭 / 8_お目当ての商品を買い求める来場者



晩秋の山あい山里のごちそうを味わう 第15回食の文化祭

第15回京津畑まつり「食の文化祭」は11月15日、京津畑体育館で開かれ、約1000人が伝統食や各家庭の自慢料理を味わいました。

料理は、地元住民など約100人が250品を出品。試食が始まると、皿はあっという間に空に。川崎町の菅原正さん(62)は「思い出の郷土食をたくさん味わえた」とにっこり。来場者は、多彩な料理に舌鼓を打っていました。



2000年の歴史受け継ぐ秋の風物詩 秋の互市

「花泉互市」が11月1日から3日までの3日間、JR花泉駅前の袋通りで開かれ、市内外から訪れた買い物客でにぎわいました。

互市には、旬の農産物、工芸品や花など約90店が出店。来場者は、店員との会話に花を咲かせながら、買い物を楽しみました。平泉町の小野寺秋子さんは「野菜の苗を買いにきました。活気があるっていいですね」と話してくれました。



ご当地グルメを食べ比べ、食欲の秋を満喫 ご当地グルメin大東

「ご当地グルメin大東」は10月18日、大東町摺沢地区特設会場で開かれ、来場者約3000人が市内外の国際色あふれる26店舗の自慢の逸品を味わいました。

今年も、町内店舗や生産者組織などの人気グルメのほか、大東高校情報ビジネス科生徒の「とりもっついパー」を販売。各店舗の前には、長蛇の列ができていました。



動物と触れ合い、大地の恵みに感謝する 館ヶ森収穫祭

「館ヶ森収穫祭」は10月10、11の両日、藤沢町の館ヶ森アーク牧場で開かれ、親子連れなどが動物との触れ合いや旬の味覚を楽しみました。

会場では、名物のアニマルダービーなど多彩な催しが行われました。ダービーで2位に入賞した及川真佐君は「入賞できてうれしい。レースは楽しかったけど、ニワトリは少し怖かった」とはにかみました。